

$$\begin{array}{c} 1 \\ | \\ 3 \\ 1 \end{array}$$

（表紙）

元禄六年酉四月朝鮮人召つれ参候時

諸事控也

諸事控

2
(白紙)

၆

乍恐口上之覺

一 当二月十一日^ニ爰元出船仕、同晦日^ニ隠岐国之
福浦へ着舟仕、三月廿四日^ニ隠岐国より出舟仕
同廿六日之朝五ツ時分^ニ竹嶋之内いか嶋と申所へ
着舟仕様子見申候得^者、鮑大分取上ケ申様^ニ

相見へ不審^ニ奉存、同廿七日之朝
 (虫損)

参申内^ニ唐船^ニ艘相見へ申候、内^一壹艘^者十人

4

舟、壹艘ハうき舟^三而居申候、唐人三拾人計見へ申候、其内式人残し置残り之者とも

右之うき舟ニ乗り、此方之船より八九間程沖を通り大坂浦と申所へ廻り申候、右之式人

残り申、内壺人ハ通シニ而貳人共ニともど舟ニ乗

此方之舟へ参申候故乗せ申候而、何国之者と相尋候

へ^者ちやうせんかわてん^{かわぐ}園^と之^と者^と申候故、此島之

儀^者公方様より拝領仕、毎年渡海

७

いたし候島^ニ而候所^ニ何とて参候哉と尋候へハ、此島

より北^ニ当り島有之、三年^ニ一度宛国主之用

鮑取^ニ參候、
 國元八月廿一日^ニ類舟十一艘^{ニテ}

出舟いたし難風^ニ逢、五艘^ニ以上五拾三人乗

此島へ三月廿三日^ニ流着、此島之様子見申候へハ

鮑有之候間致逗留、鮑取上^与候申候、左候ハ、

此島ヲ早々罷立候様ニと申候へ者、舟も打損シ候

故造作仕調次第^二出舟可仕候間、私共船^者

9

すへ候様ニと申ニ付岡へ上り、兼而拵置候諸道

具改見申候へハ、舟八艘其外諸道具見へ不申候
付、通辞へ此由尋候へハ、浦々へ廻シ遣し候と申候
先此方之舟すへ候へ^与申候へ共、唐人ハ大勢、此
方ハ讒式十一人^ニて御座候^ニ付無心元奉存、竹
嶋より三月廿七日之七ツ時分出舟仕申候、然共
何^{ニ而}も印無御座候^而ハ如何候と奉存、唐人之
拵置候申鮑少笠^ツ網頭巾^ツ

かうじ^ツ取致出舟、四月朔日^ニ石州
濱田浦へ着舟仕、夫より当月四日^ニ雲州
雲津浦迄参、翌五日之七ツ時分^ニ米子^ニ
入津仕候
村川市兵衛船頭

申ノ四月六日

平兵衛

同

黒兵衛

竹嶋へ唐人参候事流参候哉、亦ハ態たく領
いたし参候哉^与此段如何候、存知候哉と市兵衛へ
御尋候由、市兵衛申上候ハ成程流参候者^ニて
可有御座^与存候、子細ハ諸事道具等も持
参不申^ニ付、此方之拵置候道具遣申候上ハ、弥
ながれ参候もの^ニて可有御座と申上候由
竹嶋へ舟ヲ遣し申し候て唐人共竹嶋弥立のき候か

見遣^ニ舟遣候様^ニ被仰付御断申上候、則
口上書有

竹嶋^ニて唐人と諸事売買なとハ不仕哉と
御尋被遊無御心元思召候^ニ付、急度御吟味
被遊がうもんヲも可被仰付由、此段市兵衛
御断申上候

10 (白紙)

11

一 元禄六年酉五月十三日鳥取於御会所^{ニ而}
伯州米子大屋藤兵衛船例年竹寫^江
渡海仕候、百人拾石船^{老艘}、水主弐拾^老人
船頭共^ニ御赦免之鉄砲五丁脇指^三
腰鎧三筋入、隠岐ノ国福浦ヲ四月十六日

四ツ時分ニ竹嶋へ参着仕、同十^(汚損)■^(汚損)■^(汚損)嶋へ

参着仕同十八日八ツ半時分竹島出舟

仕、同廿日九ツ時分ニ嶋後福浦へ戻り申候

12

即時ニ庄屋へ断申候、同廿一日ニ田邊甚九郎殿

三好平左衛門殿御越被成、唐人召連参候儀

市兵衛藤兵衛指図^{ニ而}召連参候やと

御尋被成候、私共申上候へ、旦那共より唐人召

連参儀堅ク無用之段申付候へとも、去年

此島へ参候儀堅無用と申候所を又当年

唐人居申候間、旦那共へ為申分^{ニ而}召連

罷歸り申候

13

一 番式人夜ニ入候^而ハ御付被成候、かゝり火被

仰付候得共、此儀ハ御断申上候、唐人へ酒壺

樽着被遣候、引船被仰付同廿三日福

浦を出舟仕、同日ニ嶋前別府村へ着申候

所ニ又引舟廿艘計被仰付御下代衆御

乗り被成候^而、廿丁計こぎ千振うすげ

村へ廿三日ニ着申候、前ニ別府村^{ニ而}御乗り

被成候御下代衆御あがり候^而、外ニ番御付

14

被成候、同廿六日ニ出舟仕雲州長濱まで

参、米子へ同廿七日罷戻り申候、此外ニも

委細之儀覚不申候

舟頭 黒兵衛

判

西ノ五月十三日

同

平兵衛

判

15

熊飛脚以十筆致啓上候、弥御無事^ナ

候半と珍重^ナ奉存候、采元私^飛無事^ナ

居申候

十 船頭某其許御奉行様方へ申上候と

采元^ナ

16

態以飛脚一筆致啓上候、弥御無事
珍重奉存候、爰元私無事居申候

一 昨日山崎主馬様へ罷出候へハ、主馬様

被仰候^者、先日舟頭共^而参候^而様子

御聞被成候處へ、口上書と少相違有之
候間、拙者聞候様迄^ニ被仰候^而、昨晚

17

様子聞候へハ、其元^{ニ而}申候と相違

之儀御座候間拙者も察入申候、則

委布書付進申候間御覽可被成候

今日御会所^{ニ而}も何とて米子^{ニ而}ハ

不申やと御不審御打被[■]■舟頭共

申候^者約定成儀、其上舟中

夜も日も伏り不申故失念仕候と

御断申上候、其元御奉行様方

18

御機嫌之程無定可奉存候、可然様^ニ

□□被成被仰上可被遣候、此御返事も

御奉行様方御機嫌之様子委細^ニ

可被仰聞候、為其態如此御座候

一 爰元^{ニ而}之様子隠岐国之首尾

第一^ニ被仰候、子細^者江戸へ隠岐国

より先達^而返有之候間、爰元

19

より之口上書と相違有之候てハ

むつかしく成可申とて被入

御念候先^{申中}上書

一 先日口上書江戸へ被遣候御返事

いまた無御座候、此度之口上書にて

草惣之御返事可有之と被仰候

一 拙者不案内、主馬様へ先達^而

舟頭共申上候欸何も首尾繕

20

不致候

一 何分^ニも舟頭共も致失念不申儀

御座候間、其元^{ニ而}可然様被仰上
可被遣候、本日御寄合□□同様
山崎主馬様計御寄合にて
御座候、定^而一兩日之内^ニ又御寄合
可有御座候と存候、今日之首尾

21

成程能御座候、今一度御寄合
御座候ハ、埒明可申様^ニ為申頼候て
早速罷帰可申候、昼夜
伏り不申扱々難儀仕候
一 今日之様子修理様明朝御聞可
被遊由にて未不申上候、猶跡より
追々可得御意候、恐惶謹言

22

五月十四日
村川市兵衛様
大屋惣右衛門様

23

一 同十三日^ニ御会所^{ニ而}拙者御尋被遊候ハ
此度唐人召つれ参候と申付遣候哉
此段いかゝ申付遣候哉と御尋被成候
拙者申上候返当^{ニハ}、島へ遣候節ハ、若当年
も去年之通り唐人抔居申候とても
から鉄砲又荒キ事も不仕様^ニ申付遣候
と申上候

24

一 隠岐国^{ニ而}書上ケ候ハ、例年隠岐国^{ニ而ハ}
諸商売船てんけと申候^而御座候由、此儀ハ
拙者共も当年釣^而承申候、委細之儀ハ
先日書付進候通り、其てんけ書物之奥^ニ
書判致候様^ニ隠岐御奉行衆被仰付
判致候、例之通りノ書物^与存判致候と舟
頭共申候、例年様子ハ伊兵衛彦右衛門共^ニ
御聞可被成候、其元御奉行様へも可然様^ニ

25

御断被仰可被遣候、其元^{ニ而}之御断

第一と奉存候間、被加御不便可然様ニ御断
被仰可被遣候、以上

大谷藤兵衛

五月廿四日

村川市兵衛様

26 (白紙)

27 (白紙)

28 (白紙)

29 (白紙)

30 (白紙)